

JSSH-TSSH Traveling Fellow報告記

中島 祐子

中国労災病院整形外科

2024年4月30日から12日間、日本手外科学会のTraveling fellowとして台湾に訪問し、台北の国立台湾大学、高雄の台湾手外科学会、義大病院、台南の大東門讚診所と国立成功大学で多くの台湾の先生達と交流させていただきました。

国立台湾大学では、私が2022年の日本整形外科超音波学会にお招きしたPM&RのKe-Vin Chang先生の超音波診断と超音波ガイド下注射を見学しましたが、プロセラピー（15%ブドウ糖注射）の数の多さと素早さに圧倒され、さらに常に目の前の臨床を論文化する視点に感銘を受けました。

続いて、日本の新幹線にそっくり（個人的にはイメージカラーがオレンジで大好き）な台湾高鐵に乗って、台湾手外科学会に参加するため高雄に向かいました。学会ではTraveling Fellow Sessionで韓国・香港のFellowとともに登壇し、「前骨間神経麻痺における砂時計様くびれの超音波診断」について発表しました。質疑応答はとても緊張しましたが、日手会から多くの先生が招待されており、顔が見えることでとても心強く感じました。学会は日手会より小規模ながら、参加者同士の距離が近く、市内観光や懇親会などイベントが目白押しで、非常に密な交流ができました。

義大病院ではTu先生が率いる多くの先生と出会い、病院・手術見学をさせてもらいました。腕神経叢麻痺に対するContra C7のような大きな手術でも、若手医師が壁に手術計画を書き記して主導し、Tu先生に指導を受けつつ精密・正確な神経展開を行う姿が印象的でした。Morning Conferenceでの発表後には、超音波診断や治療についてのお考えをいただき、学びの多い時間となりました。



台湾手外科学会にて



台湾手外科学会懇親会



義大病院 (E-Da Hospital) にて

大東門舘診所では、台湾で超音波ガイド下手術を積極的に行っている国立成功大学の元教授であるJou先生の超音波ガイド下手根管開放術と腱鞘切開術を見学しました。シンプルな手技ながら安全性が高く、日本に持ち帰れる技術として大変勉強になりました。

国立成功大学では、Morning Conferenceにて講演させていただき、Wu教授と手外科領域での超音波の可能性について意見交換しました。

今回のTraveling Fellowでは、多くの先生達と交流し、貴重な経験を積むことができました。国を越えても、迷ったり悩んだりすることは同じであり、意見を交わすことで、より深い理解につながることを実感しました。連日の最高級の温かいおもてなしにも心から感謝しています。思いやりや人の温かさは世界共通であり、私自身も今後、海外からのFellowをもっと暖かく迎えたいと思いました。当初はTraveling Fellowへの応募をためらっていましたが、年齢的にはラストチャンスで挑戦して本当によかったです。海外に友人がいることはとても楽しく、学びの刺激にもなります。後輩たちにもぜひ準備をして挑戦してほしいと強く感じました。今後も国際的な交流を続け、自分自身の成長はもちろん、日本手外科学会にも貢献できるよう活動していきたいと思えます。

最後に、今回の応募にあたり、推薦いただきました砂川融先生、安達伸生先生、そして背中を押してくれた四宮陸雄先生、兒玉祥先生に心から感謝いたします。また、このような素晴らしい機会を与えてくださった日手会理事の先生方、国際委員会の先生方をはじめ、赴任直後であったにもかかわらず快く送り出してくださった中国労災病院の先生方、協力してくれた家族を含め、ご支援くださったすべての方々に心より感謝申し上げます。



大東門舘診所にて